

一般質問

観光のまち東近江市を目指して



東近江市民クラブ 西崎 彰

問 東近江市観光協会の成果は。

答 観光協会は今年度から着地型観光ツアーに取り組む、11月末現在「八日市飛行場物語」他7件を催行しました。

「木地師のふるさと奥永源寺」には定員の1.5倍の参加があり、各ツアーとも30人前後の募集定員に対し、ほぼ目標どおりの239人に参加いただきました。

問 今年初めて開催した「二日東近江市」の成果と今後の課題は。

答 会場の豊中市せんちゅうパル南広場は、市内の自治体が週替わりで物産展等を行っており、会場の受け入れ体制や立ち寄り客も多いことなどを考慮し、出店を決定しました。

この催しは消費地へ出



9月27日に開催された「二日東近江市」

向き、当市の魅力をアピールし、観光客の増加と特産品の販路拡大を図ること、一人でも多くの東近江市ファンを増やすという攻めの取り組みとして開催しました。

当日は、大阪滋賀県人会や会場周辺住民に多数来場いただき、初年度としては一定の成果があったと感じています。次年度に向けて反省する点もありますが、出店者からも評価をいただいています。

問 市街化区域(線引き)の見直しは。

答 都市計画の区域区分の見直しについては、八日市、五個荘、能登川、蒲生の4つの地域が該当します。

それぞれの地域の特性や、道路等のインフラ整備の状況、人口や産業の動向等を勘案して、地域ごとに市街化想定区域を設定する考えです。

市街化区域編入は、他法令の制限もありますので、今後、関係する部署との協議調整を図ってまいります。

※着地型観光

観光客の受け入れ先が地元ならではのプログラムを企画し、参加者が現地集合、現地解散する新しい観光の形態。主に都会にある出発地の旅行会社が企画して参加者を目的地へ連れて行く従来の「発地型観光」と比べて、地域の振興につながる」と期待されている。

農家の悲鳴が聞こえませんか



東近江市民クラブ 和田 喜藏



品質の低下が著しかった26年産米

問 今年度の稲作は、夏の高温や長雨によるコメの品質低下、収量の減少、価格の著しい低下に見舞われた。

足腰の強い農業をつくるために、市独自の補助金制度をつくるなど農業政策が必要では。

答 滋賀県は1等米比率が約52%、作況指数97、市内JAのコシヒカリの仮払いが1俵あたり9200円となり、市としても大変厳しい状況であることは認識しています。

この様な状況の中、国のコメの収入減少影響緩和対策(ナラシ対策)と

落が新たに策定されました。

27年3月までに18集落が策定予定で、合計72集落となり、市内農業集落の32%が策定いただけることとなります。

引き続きJAと協力しながら推進していきます。

問 農地中間管理事業は、農業の生産性を向上させる事を目的として25年12月に法律が一部改正され実施されている。

農地の賃貸借について、農業者の理解が得られるまで説明会を開催したのか。

答 農地中間管理機構は担い手への農地の集積・集約化を図る事を目的に農地の貸し借りをを行います。

今年度からの新たな事業であり、農業組合長会議や集落営農サミットのほか、中間管理機構および人・農地プラン説明会等で、積極的に農業者に周知を行いました。